



梅 島 小 だ よ り

褒めることが子どもを育てる

副校長 鯉沼 哲

暦の上では、春はもう間近というのに、まだまだ寒い日が続いております。皆様はいかがお過ごしでしょうか。子どもたちは、この寒さにも負けずに休み時間には元気に活動しています。

梅島小では、今年度も1月21日(月)から1月25日(金)まで縄跳び週間でした。校庭や、体育館に各学年が分かれ、昨年ヒットした、DAPUMPの『USA』の音楽が始まると、全校児童がリズムに合わせて約5分間、自分の好きな飛び方で楽しんでいました。曲が終わった後は、「チャレンジ梅島なわとびカード」をもとに、児童一人一人が様々な縄跳びの技に挑戦していました。子どもたちの様子を見てみると、「副校長先生、見て。」「二重跳び出来るようになったよ。」と何人もの児童がそばに来て、技を披露してくれました。「すごいね。」「上手だね。」と声をかけると、嬉しそうに何度も跳ぶ姿を見せてくれました。

縄跳びなどの道具を使う運動は、道具の扱い方、身体の動かし方、タイミングやリズムの取り方などが必要です。何度も、同じ動きを繰り返し行うことで運動技能を身に付けて行きます。思うようにいかない時には、途中で諦めてしまう場合も多い運動です。しかし、できなかった技ができるようになった時の達成感や成成感とは子どもたちにとって最高の喜びになり、新たな挑戦への原動力になると思っています。子どもたちが自ら、親や教師に対し「〇〇を見て」「〇〇を聞いて」「〇〇を教えて」という時は、今、自分ができるようになった時やもう少しでできそうな時などの場合が多く、その時に少しでも良いところを褒め、認めてあげるとは子どもたちにとっての最高の喜びとなり、次も頑張ろうとする原動力につながっていくと考えています。忙しい時や手が離せない時に限って子どもが「見てほしい」等のサインを出す場合も少なくはありません。そんな時は、「何を見てほしいのか。」「いつ見てあげられるのか。」などをきちんと聞いて、約束して、それを守ってあげることが子どもたちのやる気につながっていくと考えています。これは、運動する場面だけに当てはまることではなく、学習の場面でも同じように当てはまることだと思っています。

子どもたちのやる気を引き出すコツは、子どもたちの頑張りを認め、褒めることです。これからも、ぜひ、様々な場面で本校の子どもたちを見守っていただき、良いところを沢山褒めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

